

# Faculty Development

FDの歴史と本学看護学部でのFD



Faculty; 教授団 [陣] , 全教職員, 学部

# FD：大学教員の教育能力の開発を 組織的に行う取り組み

①大学で育てたい学生像の明確化や教育目標・方針の設定  
→組織の成員間での共有  
(学生含む)

②それに基づいてなされる各学部・学科の  
カリキュラム・プログラムの組織的な開発支援



③個々の教員の授業や学生に対する指導力の向上の組織的支援

\*FDは最終的に「学生の学びと成長」を  
目指すもの

# 日本の学生の変化

偏差値を指標、積極的に学ぶ意思に乏しい、不本意入学  
手当たり次第に資格という強迫観念、小さく守りに入る  
就職しても短期で退職・・・・

## 産業界の大学への要求の変化



60年代後半まで 工業化時代の人材が足りない 専門教育  
大学紛争以降 学生の学力の差

80年代 創造性 バブル経済の崩壊・・・・

90年代 具体的に要求が細かくされる

専門分野を超えた汎用性のある力

- ・ 自発的問題発見解決力
- ・ 自立的に学び続ける力、自分で考える力
- ・ IT技術の進歩、個性化、国際化・・・・

➔ 新卒者には自発的知的拡張性

➔ 即戦力は中途採用者に要求される



2000年代～全入の時代（少子化～超少子化）

個人がどのような力を求められているのか？

大学はどのように対応してきたのか？

# 社会が学生・大学に求めるもの

- 学生が自分で考える力

(問題発見解決力/クリティカルシンキング・キャリアデザイン力)

- 自己を相対化する力

(本来大学教育が目指してきたもの)



知識を与える < 思考や問題発見解決の多様な方法  
やプロセスを考えることができる

重点が移行してきている

Learner-centered education

# 学生が中心となる教育

教員が、大学が、学生に対して〇〇を教える

発想の転換



主語の転換

○学生が〇〇できるようになる

× 学生に〇〇を教授する

# 大学に強まる「成果」期待

## ◆ 「グローバル水準」と「質の保証」

アドミッションポリシー



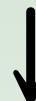
カリキュラムポリシー



ディプロマポリシー



## ◆ 目標設定（資格教育には自明？）



看護師像の個性化

## ◆ 目標を個性的に出しているか？

（建学の精神、自校の文化⇒自校教育）

# 本学看護学部のFD

- 学生による授業評価アンケートの実施と総括  
（全学・各学部で連携）
- FDサロン  
（全学・各学部で連携）
- 授業方法・研究についての研修会



## 学生による授業評価アンケートの実施と結果公表

各授業については春と秋に、また看護実習については、そのつどマークシート形式で行っています。結果は各教員に返され、科目の教育目標達成のための改善にいかしています。また、評価に関するコメントを提示しております。

2009年度からは、非常勤講師が担当する科目も含め全科目について実施しております。さらに、より効果的に活用するため、2012年度より、中間評価も実施しています。

2012年度春セメスターの総括については、HP上で公開準備中です。

<http://www.seirei.ac.jp/web/approach/index.html>

# 2012年度FD委員会の取り組み（看護学部）

看護学部内で、研修会やワークショップ、学外の研修会参加の報告を通し、学部としての教育内容の向上のために、具体的な取り組みなどをディスカッションすることで、授業内容や教授方法への改善へ繋がっています。

## 2012年度の主な研修会・報告会

1. 学外研修会参加報告会の開催  
5月、11月に報告会を開催しています。
2. 9月27日：1・2・4年次学生対象にFDサロンを開催  
今後も継続し、よりよい教育環境改善にいかします。
3. 12月：教育力向上研修会  
学部の教員間で効果的な教育方法をディスカッションする予定です。

2012年9月27日:FDサロン



# これからのFD活動とは…

- 教員としての資質や能力の開発・向上のための活動
- 教員の（主として）教育実践力を高める為の、教授団（組織）としての取り組み
- 教員と学生との共同による教育改善のための取組

その大学の個性・独自の方法で！

学生は教職員と同様、大学の主要な「構成員」！  
学生も積極的に活用していく。

